

【天気予報及び概況】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温及び降水量は、ほぼ平年並みの見込みです。

	平均気温（℃）	最高気温（℃）	最低気温（℃）	降水量（mm）
2025 年	26.3	30.7	22.9	188.0
2023 年	26.9	31.6	23.1	111.5
2022 年	26.0	30.6	22.5	45.0
1991～2020 年	24.1	28.1	20.7	232.5

※気温は、9月の平均値（気象庁）

【作 物】

1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

(1) 出穂期～出穂期以降

浅水管理（2～3cm）をします。異常高温が続くような時は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。

(2) 登熟期

灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度（飽水状態）にします。

(3) 落水期

落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

2 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ類の発生は、平年に比べてやや多いと予想されていますので出穂期の定期防除を必ずしてください。

スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍（収穫7日前まで）を使用する場合は、出穂後 10～15 日頃に散布してください。多発時には、1 回目防除の 7～10 日後（傾穂期）に追加防除をしてください。

スタークル粒剤 3kg/10a（収穫7日前まで）を使用する場合は、出穂後 7～10 日頃に散布してください。多発時には、1 回目防除の 7～10 日後（傾穂期）に追加防除をしてください。

スタークル剤はウンカ類、ツマグロヨコバイにも有効です。

(2) いもち病が発生している場合は、速やかにブラシンフロアブル1,000 倍（収穫7日前まで）で応急防除をしてください。

3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行ってください。

【品種別収穫適期基準】

区 分	短期あきたこまち	ヒノヒカリ
出穂後積算温度（℃）	900～1,050	900～1,100
最長稈黄変率（％）	85	85
出穂後日数（日）	33～37	40～46

<松本>

【野 菜】

1 主な秋まき野菜の作型(めやす)

作物名	植付け時期	収穫時期	品 種
白菜	9月中旬	12月上旬	黄ごころ75
	9月下旬	12月下旬	黄ごころ80
ブロッコリー	9月上中旬	12月上中旬	おはよう
大根	9月上旬	11月中旬	耐病総太り
チンゲンサイ	9月下旬	12月上旬	青帝

収穫時期は栽培条件や天候により変わります。

2 播種

(1) 白菜、ブロッコリー、チンゲンサイ等を育苗する場合、128 穴のプラグトレイに専用培土を入れ、1 穴に 1 粒を播種します。

プラグ苗は管理が簡単で、植付けも容易にできます。畑への植付けは、本葉 3 枚程度の頃に行います。

(2) 畑に直接播種する場合は、播き床を均平にします。播種後は十分灌水します。

間引きは本葉 2～3 枚の頃に、病虫害被害にあっているもの、生育が極端に遅い、または早いものを間引きます。

3 秋まき野菜の栽培上の注意点

(1) 秋まき野菜の重要害虫であるハスモンヨトウ、アブラムシを効率的に防除するために、育苗期後半～定植までに薬剤処理（プレバソンプロアブル5、アクタラ粒剤5等）を行います。

(2) 植付け後、残暑が続く場合、土壌を乾燥させないように注意してください。 <横山>

【栗】

1 収穫

今月の上旬には早生種の日向・丹沢、中旬からは国見・大峰、下旬からは筑波・銀寄・石鎚の収穫が始まります。収穫前に、園内の草刈を行い、樹冠下をきれいにしておきます。

栗の果実は非常に傷みやすく、特に高温にさらされると腐敗が多くなります。収穫は果実温が低い早朝から実施し、午前 10 時頃までには終わるようにします。

2 病虫害防除

中晩生種は、モモノゴマダラノメイガの産卵が 9 月上旬頃まで続くので、この時期にもう一度、パダンSG水溶剤 1,500 倍（裂果前）で防除します。

3 台風対策

台風で落葉しても、葉から果実が見えている状態であれば出荷可能です。台風後、速やかに出荷可能な果実を集めます。ただし、未熟果が混ざらないようにしてください。 <三谷>

【シキミ】

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除してください。炭そ病にはペンコゼブ水和剤 600 倍、アブラムシ類・グンバイムシ類にはスミチオン乳剤 1,000 倍、サビダニ類にはピラニカEW 1,000 倍を散布します。



ハマキムシの被害葉（2～3 枚綴る）



幼虫(食害) <浜田>

【茶】

1 秋肥2回目の施用（9月中旬頃）

1 回目の秋肥施用から 2 週間位たってから、えひめ茶有機 100 を 8 袋/10a、またはえひめ茶有機グリーン 1 号を 5 袋/10a 施用し、中耕して土と混和します。

2 山草の敷き込み（9月下旬頃）

除草後、山草等を敷草することで、雑草抑制や土壌水分保持に役立ちます。土づくりのためにも有効です。

3 立枯株の剪除（9月上旬頃）

立枯株のはっきりしてくる時期です。早めに台切りして、周囲からの株張りを待つか、補植を行います。 <松本>